

学校推薦型選抜

帰国生徒選抜

社会人選抜

令和8年度

小論文

医学部看護学科

注 意

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題は、1ページから4ページにわたっています。
3. 解答用紙は2枚、下書用紙は2枚です。
4. 開始の合図があってから直ちに問題冊子、解答用紙、下書用紙を確認し、不備がある場合は監督者に申し出てください。
5. すべての解答用紙の所定の欄に、受験番号を記入してください。
6. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。解答用紙の所定の欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としません。
7. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

実施年月日

25.12.08

富山大学

1) 以下の図表は、日本全国における5月～9月の熱中症による救急搬送状況を示している。以下の問いに答えなさい。

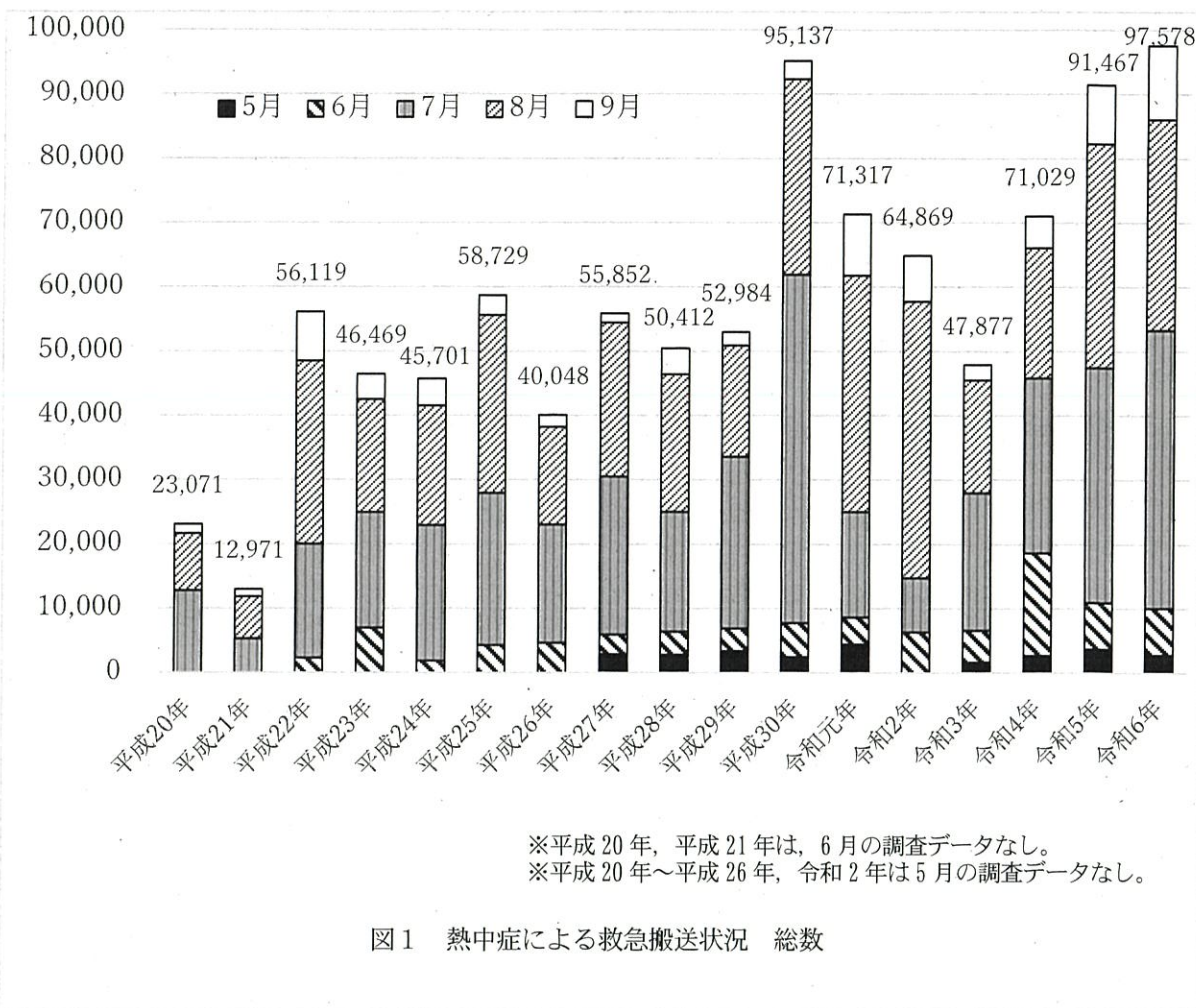


表1 年齢区別の熱中症による救急搬送状況

| | 年齢区別(人) | | | | | 合計 |
|------|---------|------|-------|--------|--------|--------|
| | 新生児 | 乳幼児 | 少年 | 成人 | 高齢者 | |
| 令和6年 | 2 | 601 | 8,787 | 32,222 | 55,966 | 97,578 |
| | 0.0% | 0.6% | 9.0% | 33.0% | 57.4% | 100% |
| 令和5年 | 5 | 796 | 9,583 | 30,910 | 50,173 | 91,467 |
| | 0.0% | 0.9% | 10.5% | 33.8% | 54.9% | 100% |
| 令和4年 | 2 | 566 | 7,636 | 24,100 | 38,725 | 71,029 |
| | 0.0% | 0.8% | 10.8% | 33.9% | 54.5% | 100% |
| 令和3年 | 7 | 359 | 4,610 | 15,959 | 26,942 | 47,877 |
| | 0.0% | 0.7% | 9.6% | 33.3% | 56.3% | 100% |
| 令和2年 | 3 | 329 | 5,253 | 21,756 | 37,528 | 64,869 |
| | 0.0% | 0.5% | 8.1% | 33.5% | 57.9% | 100% |

※ 新生児 (生後28日未満)
 乳幼児 (生後28日以上満7歳未満)
 少年 (満7歳以上満18歳未満)
 成人 (満18歳以上満65歳未満)
 高齢者 (満65歳以上)

※ 構成比は各年とも調査期間全体 (令和2年の調査期間は6月～9月，令和3年～令和6年の調査期間は5月～9月) における数値を計上している

表2 発生場所別の熱中症による救急搬送状況

| | 発生場所別(人) | | | | | | | | |
|------|----------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|
| | 住居 | 仕事場① | 仕事場② | 教育機関 | 公衆(屋内) | 公衆(屋外) | 道路 | その他 | 合計 |
| 令和6年 | 37,116 | 9,870 | 2,332 | 3,885 | 7,644 | 12,727 | 18,576 | 5,428 | 97,578 |
| | 38.0% | 10.1% | 2.4% | 4.0% | 7.8% | 13.0% | 19.0% | 5.6% | 100% |
| 令和5年 | 36,541 | 9,324 | 2,013 | 4,310 | 7,497 | 11,742 | 15,186 | 4,854 | 91,467 |
| | 39.9% | 10.2% | 2.2% | 4.7% | 8.2% | 12.8% | 16.6% | 5.3% | 100% |
| 令和4年 | 28,064 | 8,127 | 1,690 | 3,975 | 5,248 | 8,368 | 11,807 | 3,750 | 71,029 |
| | 39.5% | 11.4% | 2.4% | 5.6% | 7.4% | 11.8% | 16.6% | 5.3% | 100% |
| 令和3年 | 18,882 | 5,369 | 1,421 | 2,404 | 3,172 | 5,298 | 8,378 | 2,953 | 47,877 |
| | 39.4% | 11.2% | 3.0% | 5.0% | 6.6% | 11.1% | 17.5% | 6.2% | 100% |
| 令和2年 | 28,121 | 7,065 | 1,599 | 2,901 | 4,340 | 6,130 | 11,276 | 3,437 | 64,869 |
| | 43.4% | 10.9% | 2.5% | 4.5% | 6.7% | 9.4% | 17.4% | 5.3% | 100% |

住居：敷地内すべての場所を含む

仕事場①：道路工事現場、工場、作業所等

仕事場②：田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ

教育機関：幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等

公衆（屋内）：不特定者が出入りする場所の屋内部分（劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅（地下ホーム）等）

公衆（屋外）：不特定者が出入りする場所の屋外部分（競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅（屋外ホーム）等）

道路：一般道路、歩道、有料道路、高速道路等

その他：上記に該当しない項目

※ 構成比は各年とも調査期間全体（令和2年の調査期間は6月～9月、令和3年～令和6年の調査期間は5月～9月）における数値を計上している

出典：総務省消防庁，報道資料 令和6年（5月～9月）の熱中症による救急搬送状況，令和6年10月29日 より引用，一部改変（図1，表1，表2）

- (1) 図表から読み取れる日本の熱中症に関する課題を200字以内で述べなさい。
- (2) (1)を踏まえ、日本の熱中症に関する課題への対策についてあなたの考えを300字以内で述べなさい。

- ② 次の文章を読み、我々はなぜ睡眠を必要とするのか、文章を要約し、それに対するあなたの考えを600字以内で述べなさい。

睡眠は、数十年前までは時間の無駄遣いのようにみなされ、軽視されてきました。ところが現代では、睡眠とは何か、睡眠の役割は何か、どうすればうまく眠れるのか、といったことに大きな関心が寄せられています。

それには理由が2つあると睡眠研究のバイオニアの井上昌次郎先生は述べておられます。1つには、インターネットやデジタル化が急速に発展して、生活様式が大きく変わったからです。情報や物質面で豊かになった代わりに、環境や心の面では大きなひずみを生じ、忙しくて安らぎのないストレス社会が出現しています。その結果、世界規模で睡眠の乱れに起因する事故や疾病が増え、日本では約15兆円の損失が睡眠不足に起因していると推計されています。その被害は、勤労者の年齢層にとどまらず、乳幼児から高齢者にまで及んでいます。この原因は睡眠を軽視したことのツケだったのです。そこで、心身の健康を維持するにはどのような生活習慣を構築すれば良いか、どのように睡眠障害に対応すれば良いか、という問題が年々重みを増しています。

もう1つの理由は、脳科学が進歩したからです。睡眠や生物時計（体内時計）の役割が明らかになるにつれて、睡眠が脳の機能を管理するために極めて重要であることがわかりました。しかも、体内にあるいろいろな臓器のうち、睡眠不足に最も弱いのが脳です。最高位の中枢である脳の機能が衰え、誤作動をしやすくなるとどうなるかは明らかです。睡眠は脳ばかりか、身体のもろもろの機能を健常に保つために必要不可欠であることも自明です。

我々は脳に頼って生きています。だから、脳の性能を支える睡眠の適否が、人生の質を左右します。適切な睡眠は、より健康で豊かに生きることにつながります。逆に、不適切な睡眠は、より不健康で貧しく生きることにつながります。睡眠を適切にとることが、実利を追求するにも、精神を高揚させるにも必須条件なのです。そこで、誰もがもっと睡眠のことを知りたい、と関心をいさぐようになってきました。

我々はなぜ眠るのでしょうか。「疲れたから眠る」といった、消極的・受動的な生理機能ではありません。睡眠の役割は、もっと積極的・能動的であり、「明日によりよく活動するため」に脳神経回路の再構築、メンテナンスを果たしていると考えられています。さらに、我々は生物時計の作用で「夜になると眠るようにプログラムされている」から、眠ると考えられています。

我々の脳の重さは体重の約2～3%ですが、約1,000億個もの「ニューロン」と呼ばれる神経細胞で構成されています。ニューロン同士をつなぐ「シナプス」では、「神経伝達物質」を介して電気活動が伝えられます。シナプスの数は、100兆にもものぼると概算されています。微弱ではありますが、脳内には電流が流れているので、脳波を記録でき、脳の活動状況を知ることができます。例えば、太陽系が属する銀河系には1,000億個以上の恒星が輝いていますが、それらの星同士が互いに通信回線でつながっているのと同じような、高機能・高密度のコンピュータ構造が我々の脳なのです。

高機能の脳は、エネルギーを大量に必要とします。脳は、身体各所からの情報を集中的に処理し、信号を

出して全身を制御するため、わずかな重さの脳ですが、安静時でも身体が消費するエネルギーの18%も消費します。活動時には、脳はさらに大量のエネルギーを消費し、熱くなり疲労します。疲れたときに、「寝て頭を冷やせ！」というのは理にかなった言葉なのです。

また、脳は非常に繊細で脆弱な臓器なので、約16時間にわたって連続運転すると、酒気帯び運転状態ほどに機能低下します。全身の司令塔であるべき脳が機能低下すると、正常な精神活動や身体動作ができなくなります。そこで、脳を適切に、安全な時間帯に休息させ、修復・回復させる機能が睡眠と生物時計なのです。

身体の疲労は、眠らなくても安静にしているだけで回復できますが、脳は十分な睡眠をとることでしか修復・回復できないことを理解しておくことが重要です。

(出典：宮崎総一郎；睡眠の役割と多様性。日本睡眠環境学会 監，日本睡眠環境学会 睡眠教育委員会 編，睡眠環境学入門，p8-9，2023年，全日本病院出版会より抜粋，一部改変)

※^{しっぺい}疾病：身体の諸機能の障害。健康でない異常状態。病気。疾患。やまい。

